

平成 23 年度築理会総会・講演会 ・懇親会のご案内

工学部建築学科 OB の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、今年も「築理会総会・講演会・懇親会」を開催いたします。

本年度の話題は何と言っても新学会館が 3 月に神楽坂通りに面して完成したことです。外観は伝統と現代のふれあいを大切にしてまちづくりを進めている神楽坂のまち並みに調和した粋な和のイメージにデザインされております。地下 1 階地上 7 階建て、延面積 6500 m²。1F から 2F まで店舗、3F 住居、4F から 7F まで大学の複合建築です。6F には理科大 OB なら誰でも使用できる理窓倶楽部が設けられております。昼間は喫茶、夜間は飲食が提供されます。築理会の懇親会は母校にこのような施設が誕生したことを記念して 6F 理想倶楽部で行います。また、皆様に楽しんでいただけるよう趣向も凝らしていきます。皆様のふるってのご参加をお待ちしております。



新学会館 (PORTA 神楽坂) 神楽坂通り側 大学側外観

今年の講演会の講師は同窓の山名善之先生です。山名先生は建築学科卒業後、設計事務所勤務を経て 1995 年にフランス政府給費留学生としてパリ・ベルヴィル建築大学に学んでおります。学生にも人気があり、20 世紀の近代建築に造詣の深い先生です。
(会報委員会)



理窓倶楽部室内 今年の懇親パーティー会場



昨年の築理会同窓参加者

懇親パーティーの盛り上がり

記

- 日時：平成 23 年 5 月 14 日 (土)
総会：午後 2:30 ~ 午後 3:00
講演会：午後 3:00 ~ 午後 4:20
懇親会：午後 4:30 ~ 午後 6:00
築理会会費納入の有無にかかわらずどなたでも参加できます。
- 会場：神楽坂校舎東京都新宿区神楽坂 1 - 3
総会、講演会 1 号館 17F 講堂
懇親会 新学会館 6F (PORTA 神楽坂)
新宿区神楽坂 2 - 6 - 1
- 会費：一人 4,000 円
- 催物概要
 - 講演会「世界遺産と 20 世紀の建築・都市」
 - ～ LeCorbusier ル・コルビュジェの世界遺産推薦書をめぐって～
 - 東京理科大学工学部建築学科准教授山名善之先生 (1990 年理科大建築学科卒)
 - 2002 年パリ大学 I パンテオン・ソルボンヌ校 (近代建築技術史) 博士学位取得
 - フランス政府公認建築家 dplg
 - ・築理会員著作による本の紹介と販売等希望の方は連絡ください。
- 参加申込
出席の方は下記宛に「氏名・卒年連絡先を」4 月 28 日までにメールまたは FAX にてご連絡ください。
築理会会長石神一郎
E-mail: godhopping@yahoo.co.jp
FAX: 03-3400-1164



山名先生

Special Report / 築理会賞審査会

高レベルの作品に議論白熱

2月26日、今年で第3回目となる築理会賞の審査会が東京理科大九段校舎で行われた。平成22年度(2010年度)の工学部I部建築学科4年生の卒業制作を対象に、建築学科OBの審査員が最も優れた作品を選ぶ。

対象は教員の採点によって選ばれた上位12人の学生たちの卒業制作。審査に先立って卒業制作講評会を開催。一人当たり3分の持ち時間で学生がプレゼンテーションし、教員やOBの審査員、ゲストとして加わった非常勤講師などが次々と質問しながら講評を述べる。築理会からは石神一郎会長(1970年卒)、林孝夫副会長(69年卒)をはじめ、会報委員の森清(85年卒)、安達功(86年卒)らが参加した。

OBとして審査に当たったのは、実務で建築設計を手掛けている7人。審査委員長を石橋利彦氏(石橋徳川建築設計所、以下卒業年次は下の表を参照)が務めた。そのほかは、薩田英男氏(薩田建築スタジオ)、佐野吉彦氏(安井建築設計事務所)、真鍋喜嗣氏(山下設計)、上條美枝氏(リングアーキテクト)、川辺直哉氏(川辺直哉建築設計事務所)、加藤征寛氏(MID研究所)という顔ぶれだ。

まず一次投票では各人が優れていると評価した3作品に票を投じた。下の表のように8作品に表が投げられ、2票以上を集めた作品を対象に二次投票を行った。

二次投票の対象となったのは大和田卓君の「住華街」、小野圭介君の「見え隠れする森」、加々美理沙さんの「魅来」、戸邊和博君の「高架下を縫う」、花岡竜樹君の「風景と人間のスケール」の5作品である。

大和田君の「住華街」は東京・新橋駅前の烏森神社周辺の闇市街を住宅と飲食店の複合施設として再生する提案。小野圭介君の「見え隠れする森」は木材を500mmグリッドの格子状に組み上げた高さ31mの存在感あふれる木質巨大構造物。加々美理沙さんの「魅来」は、竹下通りに木質ラーメン構造を活用したシンボリックなサンプルギャラリーを出現させたもの。戸邊和博君の「高架下を縫う」は、秋葉原と神田間の鉄道の強い軸線を生かして高架下とそれに続く街路を一体化。花岡竜樹君の「風景と人間のスケール」は、徳島県を計画地としてホールなどの複合施設空間をガラスで囲ったうえで、その外側を階段状のスチールルーバーで緩やかに覆った案だ。

二次投票では7人の審査委員の過半に当たる4票を「高架下を縫う」が集め、見事、築理会賞に輝いた。以下、各作品に対する主な選評だ。

●一次投票の結果

タイトル/氏名	2.住華街/大和田卓	4.見え隠れする森/小野圭介	5.魅来/加々美理沙	6.order and disorder AND WINDOW/佐野俊太郎	8.高架下を縫う/戸邊和博	9.風景と人間のスケール/花岡竜樹	11.再起と残像—掘削跡地再構築計画—/山中敦之	12.進[in]/吉野菜月
審査員								
石橋利彦(1970年卒)	○		○			○		
薩田英男(78年卒)	○		○				○	
佐野吉彦(79年卒)		○		○	○			
真鍋喜嗣(82年卒)		○			○	○		
上條美枝(85年卒)	○				○			○
川辺直哉(94年卒)	○	○			○			
加藤征寛(98年卒)			○		○	○		

「住華街」については、「ゴリゴリやりましたというパワーを感じた。さらに一つひとつの場所をしっかりとデザインしている」(川辺)。「作り込んでいくパワーがみなぎっている。パワーのない人は設計から外れていく。こんな場所はなくしてしまえという見方へのアンチテーゼになる」(薩田)という評価があった。

「見え隠れする森」については、「一つのシステムで建築を完成させようという意思、システムを追求する意思が明確」(佐野)、「ゲーム的にルールをつくって設計を進める風潮が強いなかで、最初に抱いたイメージをやりきった」(真鍋)などの声があった。「魅来」に対しては「この造形物の構造設計をやってみたく感じた」(加藤)、「自然発生的な人の動きを建築化したところがよい。若い人の可能性を感じた」(薩田)。「風景と人間のスケール」に対しては「曲線で光をまわりつかせていく手法がよい」(真鍋)などの意見があった。

築理会賞に輝いた「高架下を縫う」に対しては、「どんな敷地をどう扱って何を提案するかという前提条件の骨格がしっかりしている」(上條)、「みんなが、こういう考え方であるよね、やってみたく感じたのではないか。特殊に見えて普遍性のある提案」(佐野)という評価の声が相次いだ。受賞した戸邊君は「大学院に進学して建築と都市との関係を掘り下げていきたい」と受賞のコメントを語った。

(安達功=I部1986年卒、会報委員会)



築理会賞の審査員を務めたメンバー。実務として建築設計を手掛けるOB・OG計7人が審査に当たった

●二次投票の結果

タイトル	2.住華街	4.見え隠れする森	5.魅来	8.高架下を縫う	9.風景と人間のスケール
投票数	2	—	1	4	—





築理会賞に輝いた戸邊和博君と「高架下を縫う」の模型。東京・神田近辺の高架下を対象とした。高架下とそれに続く街路を一体化したプランが評価された



2月26日の卒業制作講評会は、まず選ばれた12人の学生のプレゼンテーションから開始。非常勤講師と築理会審査員などがそれぞれの作品を講評した



プレゼンテーションする加々美理沙さん。左手前が作品の模型。東京・原宿に建つサンプルギャラリーで、SE構法で森のような空間をつくり出そうというアイデア



二次投票に残った大和田卓君の「住華街」。東京・新橋駅前にピロティをもつ住宅と飲食店の複合施設をつくる案。闇市を再現することをイメージした



小野圭介君の「見え隠れする森」。木材を500mmグリッドの格子状に組み上げた。森の中のように木漏れ日が内部に入り込む



築理会賞の審査は、最もベテランの石橋利彦氏が委員長を務めた



花岡竜樹君の「風景と人間のスケール」。ホールなどの空間をガラスで囲い、その外をスチールルーバーで覆った。階段状の外部空間に市民がたたずむ



築理会からも石神会長をはじめとする6人が講評会に参加した



建築学科としての表彰の様子。複数の学生が優秀賞に選ばれ、代表して井上恵介君が賞状を受け取った。最優秀賞には大和田君が選ばれた

りぼん制作、5年目を迎え

「りぼん 2010」編集委員会代表
山田和也（1部 2010年卒）



「りぼん」とは東京理科大学工学部建築学科の有志の学生を募り2006年から発行している作品集です。今年で5年目を迎え、まだまだ歴史は浅いですが、私は今年度の編集委員の代表を務めさせていただきました。当初は1部の卒業設計集として

刊行しましたが、その後、設計演習、課外活動と内容が増え、現在は修士設計、大学院授業での作品を掲載するまでになりました。「りぼん」制作を通じ委員が代々考えてきたことが2つあります。1つは学生の建築に対する意識、意欲を向上させる事。2つめはりボンのように人と人を繋げ、建築学科の活動を理解していただく事です。これらを代々受け継ぎ、毎年修士1年の有志で編集、制作を行っています。



私は今年、編集委員会の代表を引き継ぐ際に、「りぼん」本来の意味である、「人を繋げる」ためにどうしたらいいかという問題を投げかけました。そこで私たちが出した答えは、ページのカラー化と授業を担当した先生方からのコメントの掲載です。カラー化は作品を



作った方の設計意図を明確に伝えることができるのではないかと考えました。またコメント掲載は、その課題を



行った学生が自分の作品とより向き合い易くなり、課題を行っていない学生にも、より深く課題について理解をしてもらえるのではないかと考えました。それは、より多くの人、特に後輩たちに手に取ってもらうようにすればどうしたらよいかという私たちの答えです。

しかし、資金面でカラー化によって費用が大きく膨らんでしまうことになりました。それに関しては、築理会の石神会長を初め、諸先輩方に大きな負担をかけてしまうことになり、私たちがカラー化を行ったことで残した課題でもあります。様々な方に助けられながら「りぼん」は11月に無事完成し、完成披露会もOBOGの方の前で行うことができました。自分たちでも、支援して頂き作るだけでなく、完売させるという責任があります。現在は来年の「りぼん」を運営してくれる後輩達の運転資金のために少しでも多くの売上金を作り、販売活動を行っています。より多くの人に「りぼん」を知ってもらい、本を読んで頂けること、そして何代も「りぼん」が続いていくことが、今の私たちにとって一番うれしいことです。



「りぼん」の活動を通して、私たち自身が多くの方々と繋がることができ、ご指導を受け、多くの事を学びました。今回のことは、私達が社会に出た時にきっと身を結ぶと信じています。

最後に、改めまして、諸先生方にはお忙しい中にも関わらず、快く講評のコメントを頂いたことに感謝申し上げます。また築理会のOBOGの先輩方、協賛企業のみなさまには、私たちの活動にご理解、ご協力をしていただき、御礼申し上げます。ありがとうございました。

せんだいデザインリーグ 卒業設計日本一決定戦

栢木まどか（1部 1999年卒）

工学部第一部建築学科 助教

「せんだいデザインリーグ 卒業設計日本一決定戦」は、毎年仙台市で行われる、全国で建築を学ぶ学生の卒業設計を一堂に集め、公開審査によって日本一を決めるイベントです。2003年に第1回が開催され、以降、伊東豊雄氏、石山修武氏、藤森照信氏、山本理顕氏、難波和彦氏、隈研吾氏らを審査委員長に招き、過去8回の出展者数は延べ3000組を超える規模となります。企画・運営は仙台建築都市学生会議に所属する学生有志によって行われており、せんだいメディアテーク（共催）及び学生会議アドバイザー・ボードからのサポートを受けています。9回目を迎える2011年も前年同様、東北大学百周年記念会館・川内萩ホールとせんだいメディアテークを会場に、3月5日から6日にかけて、熱気あふれる日本一決定戦が繰り広げられました。本年の審査員長は小嶋一浩氏、審査員には西沢大良氏、乾久美子氏、藤村龍至氏、五十嵐太郎氏が名を連ねました。

今年度のおよそ530作品は、予選を経て100点がセミファイナルに選ばれ、さらに川内萩ホールでの最終審査に出場するファイナリスト10名まで絞られます。昨年、工学部では二部・藏田啓嗣さんがファイナリストに選出されましたが、本年もそれに引き続き、一部・大和田卓さんが最終審査に進みました。学内の最優秀賞を受賞し、講評会においても評価の高かった大和田さんの「住華街」は、新橋駅前を敷地とし、住宅街と繁華街を複合集住体として再編した、隅々まで力の注がれた力作であり、5作品にまで絞られた日本一候補に残りました。白熱した議論の末、ベスト3に次ぐ特別賞という結果となりましたが、審査員五十嵐太郎さんなどから高い評価をいただきました。

理工学部とあわせ、近年東京理科大学の卒業制作はこのせんだいデザインリーグにおいてかなりの好成績を残しております。自分たちの頃にはなかったこのような「全国」を舞台とする卒業制作の審査会での後輩



たちの活躍は、羨ましくもあり、同時に頼もしく思います。

なお、せんだいデザインリーグ卒業設計日本一決定戦は審査会后、3月13日まで、せんだいメディアテークでの一般公開を予定しておりましたが、3月11日に起きた震災により、会期中途にて、会場は閉鎖されたままとなっています。大きなイベントを企画し、運営してこられた実行委員会の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

築理会賞受賞おめでとう（2010年度卒業）

築理会では築理会賞を設け毎年1部・2部建築学科卒業生の中から、それぞれ学業成績優秀な学生と優れた卒業設計をした学生を表彰しています。3月19日の学科の卒業式会場で授賞式が行われ石神会長から2010年度受賞した以下の4名に賞状と副賞が手渡されました。



- ・本年度学業成績が優秀
東京理科大学工学部第1部
建築学科 大和田卓



- ・本年度卒業制作が優秀
東京理科大学工学部第1部
建築学科 戸邊和博

「高架下を縫う」
道路の高架下に隣接した敷地の価値を高めた計画が評価された



- ・本年度学業成績が優秀
東京理科大学工学部第2部
建築学科 家村昌宏

- ・本年度卒業制作が優秀
東京理科大学工学部第2部
建築学科 原村陽一

連載 研究室紹介 (第10回)

研究室紹介、第10回です。日常大学から疎遠になりがちなOBの方々に理科大の今を知ってもらうため、現在どんな研究をしているのか等、研究室から記事を書いて頂くコーナーです。

今回は郷田研です。どうぞお楽しみ下さい。

郷田研究室紹介

2009年4月に理科大で研究室が始動、私自身は1988年3月本学卒業なので20年ぶりの帰還となった。母校は多くの恩師が退職され、校舎も神楽坂から九段に移り、学生の風貌や気質も驚くほどに変化していたが、どこか懐かしく、これが大学という場所の蓄積なのだ実感している。大げさな言い方だが、私としては、ただでさえ国やら社会やらを上世代から受け継ぎ、下世代に引き渡すことを考えざるを得ない年代である。その上、母校で教育・研究の機会に恵まれ、運動会でリレーのバトンを受けとったようなもの、このバトン、手渡されたからにはしっかりと握って走らねばと思いつつ、研究室では楽しくも悪戦苦闘の日々を重ねている。

□2年を終えて

学生時代の研究室から学び、模倣していることが幾つかある。理科大の沖塩研からは「人のネットワーク」、東大の原・藤井研からは「開かれた場所」である。

前任の電機大では6年間研究室を持っていたので、まずは電機大から理科大へシームレスな研究室をめざした。研究室を媒介とした卒業生や現役学生の繋がり、人のネットワークこそ重要と考えたからだ。想像以上に今日の学生には隔たりの意識が薄く、あっという間に2大



2010夏のゼミ合宿
(理科大、電機大あわせて22名の研究室現役学生たち)

学混成チームの面白い研究室となった。

研究室には時折見慣れない学生がいたり、比較的自由的な空気が流れている。理科大は元来、物理的なキャパ



研究室ゼミ (教員も学生も入りまじって議論)

シティの事情があつて他研究室へ出入りにくい。そもそも研究室は研究に集中する場であり、貴重な資料もあるのでむやみに開放しないという考えもあろう。一方で、研究室が開かれた場所となり、自由的な空気と多様な集団を生み出すこともまた大学に相応しい。やがて卒業生が気兼ねなく訪れ、若い現役学生と自由闊達に話しする光景なども思い描いている。

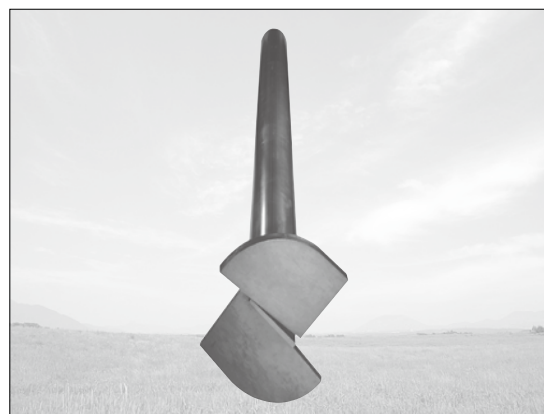
□研究室の活動

研究室の専門分野は建築・都市計画および建築設計である。包括的な語の羅列でいささか気恥ずかしいが、建築単体を設計するという個別的な建築活動の視点にたつて、その集合体の計画学、計画技術に向きあっているつもりである。

研究室での取り組みには大学でしかできない課題を心掛けています。私自身が建築設計という実務の場で感じる問題が発端になることも多い。例えば、個々の建築形態をコントロールする法制度が実際に地域空間全体をどのような方向に導いているか。徹底的なフィールドワーク(=足が棒になる)、客観的データの収集(=途方にくれる)、計算機による解析(=頭と道具をフル回転)というプロセスは研究室の共通コードのもので、若く意欲的な学生の力なくして実現しない。

研究室のライフワークとなりつつあるのが都市住居の調査研究である。高密度な超高層住居が次々建てられる昨今、都市再開発で失われていく低層の高密度住居群に計画的知見を求めて、ハノイの管状住居、バルセロナ旧市街、ソウルの都市型韓屋、北京の四合院住居、上海の里弄住居、香港の唐楼など、継続的な調査研究を行っている。

右ページへ続く



目に見えない支える技術こそが大切だと考える。

回転貫入鋼管杭ジー・エクス・パイル
G-ECS PILE®

<http://www.sansei-inc.co.jp>

営業品目: 建築工事における基礎杭の開発・販売・施工/建築工事における各種杭の技術提案

※ 技術開発スタッフ募集中

株式会社 三誠 SANSEI INC. 本社 〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町20番3号 箱崎公園ビル TEL:03-3639-5226 / FAX:03-3639-8162
関西営業所 / 北関東営業所 / 茨城営業所 / 新潟営業所
(昭和48年 工学部建築学科 代表取締役 三輪富成 ・ 専務取締役 小川ひろし 他2名)

まちづくりの現場で実践的に学ぶことも研究室には欠かせない活動である。学生達は東京の下町 深川の商店街に柔軟に入り込み、イベントの手伝いから、商店街のマスタープランづくり、コミュニティカフェの改装計画に至るまで、ハード、ソフト両面にわたる多様なワークを楽しんでいる。

...

震災の日から2週間あまり。絶望的観測の悪い癖が出て、傍らにいる学生達の世代にバトンを渡せるかと感傷的になりがちである。それでも身近な所から、出来ることから始めるしかないと思いついた。明日、研究室の学生達に問いかけてみよう。

(工学第一部建築学科郷田研究室 郷田桃代=I部1988年卒)

直井研究室 お疲れ様

天神良久 (I部1982年卒)

工学部第二部建築学科の直井研究室が平成23年3月31日を持ちまして研究室を閉じることになりました。但し、直井英雄先生は、大学院：国際火災科学研究科の教授、ならびに東京理科大学の理事として平成23年4月以降も東京理科大学に在籍されます。今回は、直井研究室の卒研究生・助手の立場で、研究室OBを代表して天神良久(昭和57年3月：工学部第一部建築学科卒、昭和62年度～平成2年度：直井研究室助手)が研究室の沿革をレポートさせていただきます。

直井英雄先生は、東京大学工学部建築学科を卒業され同大で工学博士を取得されました。東京理科大学には昭和54年(1979年)4月に工学部第二部建築学科助教授として就任され、32年間の長きに渡り東京理科大学で学生の指導にあたられてきました。

研究分野は「建築人間工学、建築安全計画、日常災害」です。研究室では第一部、第二部の卒研究生、大学院生を受け持ち、400名を超える学生を社会に送り出しています。その間、1992年には「日本建築学会賞(論文賞) 論文のテーマ：建築日常災害に関する一連の研究」を(社)日本建築学会より受賞、2005年には「東京都技術振興功労表彰 論文テーマ：建築日常災害の防止に関する研究および普及啓蒙活動」を東京都より

受賞されています。研究テーマをより具体的に説明しますと【転落事故や転倒事故など、建物内で生じる事故を総称して「日常災害」といいます。この日常災害防止の条件を、種々の人間工学実験を通して探ることが主要テーマです。火災時の避難の問題や、幼児・高齢者にとっての建物各部の使いやすさの問題などにまでテーマを広げていました。】

研究室の日常生活の事例を紹介します。

事例1：【直井研はお酒が飲めると聞いたのですが?】直井先生はお酒が大好きです。ですから自然に酒豪が研究室に多く在籍していました。また、研究室の食器棚の上には、世界の銘酒が並んでいたのを思い出します。

事例2：【直井研はテニス合宿があると聞いたのですが?】直井研は8月に都内から100km圏内の近距離で毎年合宿を開催していました。合宿では建物見学+テニスを楽しみますが強制参加ではありません。先生の第二の趣味がテニスで先生はお上手です。以上、語りたいことは山ほどありますが紙面の関係でここまでとさせていただきます。直井研究室は閉じましたが、直井英雄先生の益々のご活躍と、末長いご健康を卒研究生一同祈念しております。

直井先生、32年の長きに渡り東京理科大学の学生にご指導を頂き感謝いたします。【お疲れ様でした!】。



平成23年3月26日撮影
後列左から、矢島、敷下、岩井、大竹 各直井研OB
前列左から、筆者：天神、直井英雄先生、久保田補手

平成22年度 1級建築士 設計製図試験

当学院教室開講都道府県 **50.0%** 合格者占有率
当学院教室開講都道府県合格者4,189名のうち当学院合格者数2,096名

当学院教室開講都道府県 **54.5%** 合格者占有率
学科・製図ストレート合格者数2,093名のうち当学院合格者数1,141名

No.1

※都道府県合格者数は、(財)建築技術教育普及センター発表の受験番号より算出。※上記 当学院開講都道府県合格者占有率には、1級設計製図講座を併講していない青森県、岩手県、秋田県、長野県、鳥取県、島根県、愛媛県、高知県、佐賀県、長崎県、大分県、宮崎県、沖縄県の合格者は含んでおりません。※上記エリアから隣県の当学院開講教室にて受講し合格された方は、合格実績に含んでおりません。※学科・製図ストレート合格者とは、平成22年度1級建築士学科試験に合格し、平成22年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。※上記 占有率および合格者数はすべて平成22年12月19日18:00に判明したものです。今後新たに合格者が判明次第、数値は変更していきます。※総合資格学院の合格実績には、後援試験のみの受験生、教材購入者、無料の事務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。

開講講座
1級・2級建築士 / 1級・2級建築施工管理技士 / 構造計算コース (実務講座)
宅地建物取引主任者 / インテリアコーディネーター / ファイナンシャル・プランナー

平成22年度も多くの東京理科大学卒業生の方が、当学院講座を利用して合格されました!

東京理科大学 東京理科大学 合格者占有率 **65.5%**
全国大学別順位 **第2位**

東京理科大学卒業合格者139名中、総合資格学院講習利用合格者91名合格

※卒業学校別合格者数は、試験元である(財)建築技術教育普及センターの発表によるものです。※総合資格学院の合格者数には、「2級建築士」等を受験資格として申し込まれた方も含まれている可能性があります。※上記合格者数および当学院利用率はすべて平成22年12月19日に判明したものです。

総合資格学院 TEL: 03-3340-2810
総合資格 検索 www.shikaku.co.jp
すべては「合格」のために

築理会第3回新年会が開催

平成23年1月26日(水)18時から森戸記念館で、第3回新年会が開催されました。同窓が55名、学生が6名で総勢60名を超える皆様に参加し、久しぶりの再会を楽しみました。石神会長から昨年度の築理会活動状況や神楽坂キャンパスでのホームカミングデイが盛況であったという話がありました。今年も1期の先輩方から若手まで幅広く参加いただきました。最後は校歌を歌い、心が触れ合い一体になっておりました。来年もまたご参集いただき、同窓のネットワークを広げていきましょう。(会報委員会)



海外勤務でなかなか参加できなかった1期原見氏の乾杯



しばしの楽しい交流

原先輩の話に聞き入る

会費等の納入状況

築理会報発行等の築理会運営・活動は皆さまから納めていただく会費と寄付金で賄われております。一昨年から築理会の運営・活動を安定的かつ継続的に続けていくために「運営安定化委員会を」設置しました。委員会メンバーを中心に納入率向上に努めてまいりました。平成22年度の納入状況が整理できましたので報告いたします。

	一般(人)	新卒(人)	終身(人)	計(人)	寄付金
平成20年	232	3	14	249	-
平成21年	306	12	17	335	69500
平成22年	249	14	17	280	261000

21年は皆さまの協力により平成20年より34%の増加となりました。新卒会員の増加も目立っております。22年は寄付金の増加が顕著です。26万1000円の寄付をしていただき感謝しております。「築理会賞」、「りぼん制作支援」等に有効に活用させていただきます。I部II部学科及び院生の卒業生総数は6700名になりました。納入率は4.2%でまだまだ不足しております。築理会活動を安定的継続的に運営し、活性化していくためには会費納入率がアップしていく必要があります。皆様のご協力をお願いいたします。

(運営安定化委員会)

平成23年会費納入のお願い

現在、平成23年度の会費の納入をお願いしております。同封の振込用紙にて、お振り込み下さい。

今後のさらなる築理会発展のため、多くの方のご協力をお願いします。

年会費 3,500円

加入者名 築理会

口座番号 郵便局 00110-5-171952

寄付金報告

築理会は会費と寄付で運営されております。年に2回、春秋に築理会報a.b.cを発行しております。22年度の寄付金は26万100円集まりました。ここに22年度寄付をされた28名の会員の方に紙面をかりて感謝申し上げます。集まった寄付金は築理会賞や「りぼん」発行の支援等に有効に活用させていただきます。(23年度に寄付をされる方は送付された振込用紙でお願いいたします。)

築理会 寄付者名簿 (2010/1/26 現在、敬称略)

- | | |
|-----------------|-------------------|
| I部 1966年卒 松尾 稜威 | I部 1971年卒 藤森 正純 |
| I部 1966年卒 三松 一字 | I部 1972年卒 山ノ井 義重 |
| I部 1967年卒 鴻巣 良三 | I部 1972年卒 渡辺 一男 |
| I部 1967年卒 小山 一郎 | I部 1973年卒 三輪 富成 |
| I部 1968年卒 福田 義克 | I部 1979年卒 佐野 吉彦 |
| I部 1968年卒 河野 茂磨 | I部 1980年卒 廣谷 純弘 |
| I部 1969年卒 林 孝夫 | I部 1981年卒 増村 清人 |
| I部 1969年卒 谷口 二郎 | II部 1983年卒 宇野 与四郎 |
| I部 1970年卒 石神 一郎 | II部 1984年卒 志藤 博文 |
| I部 1970年卒 古池 廣行 | I部 1990年卒 今本 啓一 |
| I部 1970年卒 岩城 知宙 | I部 1994年卒 山崎 大輔 |
| I部 1971年卒 福原 憲男 | I部 2003年卒 小林 聡浩 |
| I部 1971年卒 乙丸 勝範 | II部 2003年卒 津島 健二 |
| I部 1971年卒 持田 秀明 | I部 2006年卒 坂巻 直哉 |

「編集後記」

震災発生から20日が経過しました。被災された皆様にお見舞いを申し上げるとともに、救助・救済・復旧に懸命に取り組む同窓に、心よりのエールを送ります。今回の震災で日本が各国から称えられた、冷静さ、規律正しさ、そして助け合いの心。5月14日はそんな「輪」や「和」を実感する機会にできればと願います。

(安達功 adachi@nikkeibp.co.jp)

築理会報 2011 春号

2011年04月発行 Vol.47

発行所 : 東京都新宿区神楽坂1-3

東京理科大学工学部一・二部建築学科

築理会事務局 会員問合せ chikurikai@gmail.com

FAX 03-5213-0976

編集長 : 安達 功

編集委員 : 石神一郎、大岩昭之、藤森正純、広谷純弘、森清、伊藤学、松浦隆幸、山名善之、平賀一浩、菊地宏、栢木まどか、深野有紀、大槻尚美、野村奈菜子

印刷発送 : グローバルシステム株式会社